

23PO-pm325

6年制薬学課程における修業年数内進級と国家試験の可否の関係

○三浦 健¹, 速水 幹也², 山森 元博¹, 安井 菜穂美¹(¹武庫川女大薬, ²椋山女学園大)

本邦における6年制薬学課程の修学・教育状況の検討を目的に、国家試験(国試)の可否状況を検討した。各大学は各種パフォーマンスの開発を含めた特色ある教育、薬剤師の職能をより深く理解するためのプロフェッショナルリズム教育など、質の高い薬剤師が備えるべき素養を育成するために努力を傾けている。本検討はその性質上、各大学における薬学教育全体や卒業学生の将来のパフォーマンス等を含めた比較評価にはなりえないことに注意を要する。

文科省や厚労省、各大学ウェブサイトより入学者数、修業年数内進級者数(率)、修業年数内卒業生数(率)、修業年数内国試合格者数(率)などを得た。また、代々木ゼミナールより解析対象年度の入試内容を反映した入学時偏差値を得た。これらより、留年・退学指標(修業年数内5年次進級を達成できなかった学生の割合)、卒業延期指標(修業年数内5年次進級者と修業年数内卒業生の差の割合)を算出した。また、合格乖離指標として、新卒国試合格率と修業年数内国試合格率の差を算出した。

各学年修業年数内進級者率を検討したところ、5年次進級率と6年次進級率はほぼ等しく、修業年数内進級が叶わなかった学生(留年学生)を検討するには、留年・退学指標として修業年数内5年次進級者数を検討する妥当性が示された。入学時偏差値と修業年数内合格率は極めて強い正の相関を示した。修業年数内国試合格率、留年・退学指標、卒業延期指標、合格乖離指標を基にクラスター解析を実施したところ、全体傾向として入学時偏差値に依存した5つのクラスターを見出した。ほぼ同一の入学時偏差値を示すクラスター間では、卒業延期指標と合格乖離指標により明確に区分することができた。